

一〇二三年四月二八日

囁りに目覚めて励む厨事  
深山道瀑布のごとく懸かり藤  
改札は駆け足屋根に燕の巣  
一〇二三年四月二七日

子雀にパン屑はたくベンチかな  
自転車の籠にスケボー風薰る  
山畑を明るうしたる柿若葉  
落椿赤白陣を分かちけり

一〇二三年四月二六日

踝を洗ひそめたる春の潮  
街古りしシャッター通り燕来る  
遺影へと供へる畑の初苺  
一〇二三年四月二四日

満天 澄子 澄子 千鶴  
なつき うつぎ うつぎ うつぎ  
あひる うつぎ あひる みきお  
はく子 はく子 はく子 素秀

一〇二三年四月二三日

兵の夢の城址に青き踏む  
花水木通りと名づく通学路  
竹とんぼ放ちたる空風光る  
出庫する始発電車に朝っぱめ  
触角で交はす挨拶蟻のみち  
明易し宵つ張りなる一人居に

一〇二三年四月二三日

トラクターに閉込められし春霞  
緑さす森の奥よりトランペット  
鶴鵠の遊ぶ河原の風光る  
藤房の揺れにばいばいする子かな  
首飾り編むげんげ田に日を浴びつ

素秀 ほんこ 満天 素秀  
なつき なつき なつき なつき

毎日句会みのる選・一〇二三年四月二三〇日

鰯雲水平線の撓みけり  
代わる代わる赤子抱き上ぐ藤の下  
囁りに無為授かりし座禅堂  
野地蔵の首に白詰草の数珠  
己が影と縫るるごとく日向蝶  
香りたつ路地を曲がれば薔薇屋敷  
藻の花の流るる影に夕日さす

素秀 素秀 素秀 素秀  
かえる むべ むべ むべ